

皆さんは、「公安調査庁」という行政機関の名をこれまで聞いたことがありますか？
公安調査庁は、情報機関であり、最大のミッションは、我が国の公共の安全の確保です。
法務省の外局として、東京にある本庁及び研修所のほか、全国の8公安調査局と14公安調査事務所から構成されています。

当庁は、破壊活動防止法等に基づき、テロ等の暴力で政治的目的を達成しようとする団体を調査し、必要に応じて規制手続を行うほか、いわゆるオウム真理教に対する団体施設への立入検査など、規制が認められた団体に対する規制措置を講じています。

また、我が国の情報関係機関で構成される情報コミュニティのコアメンバーとして、調査を通じて収集した情報（インテリジェンス）を政府首脳や関係機関に提供し、政府の危機管理・外交・安全保障等の重要施策の推進に貢献しています。



Message from Staff

なぜこの仕事を選んだのですか？



一般職行政区分 採用

私が公安調査庁を志望した一番の理由は、個性豊かな職員の方々の人間性に惹かれ、「私もその一員として働きたい!」と思ったからです。私は、時々刻々と変化する現代社会において、秩序が保たれた安心・安全な社会を守ることに貢献したい、という思いから、治安機関を志望しており、「情報の力で国民を守る」当庁の業務に興味を持ちました。

実際に働き始めて、これまで触れてこなかった分野に関する専門知識を求められる場面も多く、日々勉強の毎日ですが、様々な分野に精通する人と話し、新たな事を知れる楽しさがあります! また、上司や先輩との距離が近く、困ったことがあれば、すぐに相談できる環境が整っています。

治安機関であるため、入庁するまで詳細な仕事内容は分からず不安もありましたが、自分が想像していた以上に幅広い分野の業務に携わっています。人から話を聞くことのほか、外での調査や街を歩いて情報収集に役立つようなヒントを探すこともあります。1年目から多くの仕事を任せてもらえる点や調査官の声が業務に反映されやすい点も、入庁前のイメージとは違い、より主体性を発揮できる仕事だと感じています。

当庁は、機微な情報を扱っているため、課される責任は重いですが、その分、やりがいや達成感を強く実感できる仕事です。

この仕事のやりがいは何ですか？

私は現在、公安調査官7年目で、若輩ながら様々な分野の情報収集に携わってきました。そんな私がやりがいを感じる瞬間は、自身の個性を最大限活かした上で情報を入手できた時です。

当庁業務の根幹である「ヒューミント」で最も重要なことは、相手方との関係構築に尽きます。しかし、その手法は無限にあり、そこでは調査官の個性が十分に活かされます。例えば、私は、入庁前から英語に関心があったため、入庁後は、語学力を活かした業務に携わりたいと考えていました。そうした中、絶好の機会が訪れました。相手方が英語しか話せなかったのです。その方とは、英語でくだらないジョークを交わしたり、お互いの文化を紹介し合うことで、打ち解けていき、次第に有益な情報を教えてもらえるようになりました。まさに自身の性格や語学力が活かされた取組であり、大きなやりがいを感じたと同時に、個性を活かせる当庁に入庁した自分を心から褒めてあげました。

以上の事例は、あくまで一例です。中には、思いもよらぬ方法で情報提供者と距離を縮め、アッと驚くような情報を入手する調査官もいます。貴重な情報を得られた時の喜びも格別ですが、情報入手に至るストーリーを考えるのもまた調査官の醍醐味です。次に“脚本賞”“主演俳優賞”をW受賞するのはそのあなた。共に働く日を心待ちにしています。



一般職行政区分 採用

もっと詳しく知りたい方はこちらへ!

公安調査庁
ホームページ



X
(旧twitter)



YouTube

